

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																
56			花崗斑岩	灰褐	Bg IIg	bg		β		55.46~55.72m: 上下位に比べて割れ目が密集し、傾斜30~40°の割れ目が発達する。 55.46~55.58m: 割れ目沿いに細粒化し、割れ目は酸化汚染を受け、褐色を呈する。 55.58~55.72m: 上部に比べて硬質となる。 55.72~56.36m: 岩盤の劣化をほとんど受けず、新鮮・硬質であるが、55.72~56.10m間は岩芯まで酸化汚染を受け、弱く褐色を呈する有色鉱物の周辺が褐色化する。56.10~56.36mは上部に比べて新鮮で長柱状コアを主とする。	OH'																				
57				褐灰	Cg IVg			γ		56.36~57.10m: 上位に比べ割れ目は多い、傾斜5~70°の割れ目間隔は5~10cm程度となる。岩片~短柱状コアを主とする。57.10mまでは岩芯は概ね新鮮であるが、割れ目沿いに岩盤が劣化し、細粒化する。割れ目にはマンガンが付着する。有色鉱物の周囲は褐色化する。 56.69m: 傾斜40°の割れ目に幅1mmの褐色の砂を挟む。 57.10~57.65m: 岩芯まで酸化汚染を受け、部分的に弱く褐色を呈する割れ目は酸化汚染を受け、黒褐色を呈するマンガンが付着する。コアは比較的新鮮で、割れ目は少なく、57.25~57.50mは長さ25cmの柱状コアとなる。 57.17m, 57.59m: 傾斜60°の割れ目面に酸化汚染やマンガン鉱染が見られる。 57.65~58.50m: 淡褐色を帯び、部分的に不規則・不連続な淡黄色の粘土を伴う変質軟岩である。上下位に比べて割れ目が多く、割れ目沿いの細片化・細粒化が見られる。岩自体もやや軟質となる。割れ目間隔は0.5~3cmで礫状~岩片状コアからなる。 57.65~57.88m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で、割れ目面に酸化汚染やマンガン鉱染が見られる。 57.92~58.05m及び58.22~58.31m: 土砂状を呈し、軟質である。	CL'											8/13	95		ダブルコアチューブ / ダイアモンドビット	58.0	100	0.1	泥水1	0	
58				にがい橙	Dg Vg			δ	3																						
59				灰白	Cg IVg			γ	2		58.50~58.91m: 赤色を帯び、岩盤が劣化し割れ目が密集する。全ての割れ目が酸化汚染を受け褐色を呈し、細粒化・細片化する。割れ目は傾斜20~50°が主体。 58.91~60.73m: 上位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、岩芯に新鮮部が見られる。部分的に割れ目沿いに劣化し細粒化する。																				
				褐灰																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
													0	10	20	30	40												50							
			花崗斑岩	褐灰	Cg	Cg	γ	2	65.08~65.87m: 傾斜10~50°の同系統の割れ目が発達する。一部の面に幅0.5~1mmの砂を挟む。	10 [13]	CL'								8/14																	
66									65.87~66.61m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目沿いの岩盤の劣化は見られない。岩芯は弱く褐色化し、割れ目は全て褐色化する。	15	CM'																									
									66.28~66.37m: 傾斜40°の割れ目沿いに細片化した割れ目密集部である。	15																										
									66.61~67.06m: 傾斜40°前後の割れ目が卓越し、割れ目が多い。割れ目沿いに細粒化する。岩芯は硬さBの硬質部が見られる。 66.84m: 傾斜50°の割れ目沿いに明緑灰色の変質鉱物が見られる。	15																										
67									67.03m: 傾斜60°の割れ目に褐色の細粒物質を挟み、明緑灰色の変質鉱物が付着する。 67.06~67.43m: 上下に比べ割れ目はわずかに少なくなるが、割れ目沿いの細粒化が見られ、67.19mの傾斜40°の割れ目には明緑灰色の変質鉱物が見られる。	15	CL'																									
									67.36m: 傾斜45°の割れ目に沿って幅2~15mmで岩片状を呈する。 67.43~67.99m: 傾斜45°程度の割れ目が1~4cm間隔で見られる。 67.60m: 幅5~10mmのマンガン濃集帯が分布する。	15																										
									67.93~67.98m: 傾斜45°の割れ目に幅1mm程度の黄褐色を呈する細粒物質を挟む。 67.99~68.22m: 上位に比べて割れ目がやや少なくなり、コアはやや硬くなる。 68.22~68.82m: 上下位に比べて割れ目は少なく、傾斜0~60°の割れ目が散在する。	15																										
68									68.38~68.50m: 傾斜20~30°の割れ目密集部で、全ての割れ目にマンガンが付着する。 68.63~68.66m: 傾斜5~10°の割れ目沿いに細片化する。	15	CM'																									
									68.82~70.54m: 上位に比べてわずかに割れ目が多くなり、上位と比べて微細な割れ目が発達し、割れ目沿いに細粒化する。	15																										
69									69.26~69.42m: 傾斜50~70°の同系統の割れ目が分布する。全ての割れ目面に酸化汚染が見られる。	15	CL'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																										
															() 図 N値~深度																																																																									
76			花崗斑岩	褐灰				γ	2		75.13~75.36m: 岩芯は岩盤の劣化は見られないが、割れ目沿いに岩盤が劣化し、細片化する。	CL'																																																																												
											75.36~75.73m: 割れ目沿いに岩盤が劣化し、幅5cmにわたり細片化・細粒化する。75.62mの傾斜20°の割れ目には灰白色粘土を挟む。																																																																													
											75.71~75.73m: 傾斜50°で幅15mmの粘土混じり礫状部からなる。岩盤は劣化し、硬さEとなる。																																																																													
											75.73~76.21m: 割れ目沿いの細片化が見られ、全ての割れ目が褐色化する。割れ目の傾斜は5~60°で一部交差して岩片状を呈する。																																																																													
											76.21~76.67m: 割れ目は2~10cm間隔で、コアは比較的新鮮で硬い。																																																																													
											76.67~76.94m: 傾斜15~30°を主体とした微細な割れ目が発達する。76.76~76.94mは長石類が変質し、軟質となる。																																																																													
77											花崗斑岩																				褐灰				γ	4		●76.94~77.03m: 破砕部 上端60°、下端40°でいずれも直線的。	CL'																																																	
																																						76.94~77.03m: 粘土混じり砂礫状部 (Hb) 明赤灰色粘土が網目状に微細な砂礫間に挟む。せん断面と調和的で不連続な幅0.5mmで褐色化する淡黄色粘土脈が見られる。褐灰色を呈する。																																																		
																																						77.03~77.26m: 岩盤劣化部で、傾斜30°程度の割れ目が発達し、全体に細粒化・細片化する。岩片は硬さCで硬い。																																																		
																																						77.26~77.40m: 上位に比べて岩盤劣化は軽微となり、岩片状コアを主とする。傾斜20~60°の割れ目が主で割れ目間隔は1~3cmでコアは硬い。																																																		
			77.40~77.63m: 上位に比べてさらに割れ目は少なくなり、岩芯は硬質となる。傾斜60~75°の割れ目が主体。																																																																																					
			77.63~77.95m: 微細な割れ目が見られるが、上位に比べて割れ目は少ない。柱状コアを呈し、硬い。																																																																																					
			77.94m: 傾斜30°の割れ目は褐色化し、斑状にマンガンが付着する。割れ目周囲の長石類は変質する。																																																																																					
			77.95~78.61m: 上位に比べて岩盤が劣化し、割れ目は多くなる。岩芯は新鮮であるが、割れ目は酸化汚染を受け、褐色を呈する。傾斜90°と傾斜60~70°の割れ目が交錯し、コアは岩片状になりやすい。																																																																																					
			78.61~79.50m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目の一部に細片化が見られる。																																																																																					
79			花崗斑岩	明褐灰				γ				79.23~79.50m: 岩芯は弱く酸化汚染し、褐色を呈する。	CM'																																																																											
											79.50~79.80m: 傾斜45~60°の割れ目が卓越する。全区間にわたり、細片化・細粒化し、特に、割れ目に沿って細片化が進む。割れ目には褐色系の粘土を挟む。																																																																													
											79.66m: 傾斜45°で幅1mmの軟質な明黄褐色粘土を挟む。																																																																													
			花崗斑岩	褐灰				γ			79.80~80.78m: 上位に比べて割れ目は少ない。岩芯は概ね新鮮であるが、割れ目に灰白色粘土が付着する。傾斜30~80°の割れ目が交差して、一部岩片状を呈する。割れ目間隔は1~10cmで微細な割れ目も少なく、コアは硬い。	CL'																																																																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																																																																											
81			花崗斑岩	褐灰	Cg	IIIg	cg	IVg	2	80.78~81.03m: 上位に比べて割れ目は少ない。傾斜70°程度の高角度割れ目を主とし、これに伴う微細な割れ目が見られる。	CL'	8/21	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																																																																
82		明褐灰								Eg																	VIg	dg	3	81.03~81.40m: 岩芯は概ね新鮮である。割れ目沿いに細片化・細粒化する。81.38~81.40m付近の傾斜20~30°の割れ目に局所的に灰白色粘土が見られる。	D'	8/22	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																																												
83																														灰赤																	Dg	VIg	dg	3	81.40~81.68m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であるが、81.68mの割れ目の周縁部は長石類の変質が見られる。	CL'	8/22	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																							
84																																																			にぶい橙																	Eg	3	81.68m: 傾斜70°で幅2mm程度の黒褐色を呈する軟質なマンガンを含む。81.69~82.02m: 変質作用による岩盤劣化部で、原岩の組織や割れ目が不明瞭となる。長石類が全て変質する。一部に割れ目が識別できる非変質部があり、割れ目は少なく、岩片は硬さCと硬質になる。変質による劣化も軽微である(2ランク)。	CL'	8/22	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																				
																																																																						赤灰																	Cg	cg	2	81.76m: 灰白色粘土が網目状に分布する。	CL'	8/22	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0
																																																																																										赤灰																
				赤灰	Vg	γ	2	82.42~82.59m: 微細な割れ目が見られ、風化・変質により、大半の長石類が変質する。	CL'		8/22	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																																																																	
		赤灰						Vg		γ																2	82.59~83.71m: 破砕部	CL'	8/22		0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																																														
																											赤灰			Vg															γ	2	82.59~83.71m: 粘土混じり礫状部 (Hj)	CL'	8/22	0		10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																										
																																															赤灰				Vg														γ	2	上端20°で不明瞭、下端54°でシャープ。下端には幅1~5mm程度で膨縮するやや軟質な灰黄色粘土を伴う。上下位に比べて軟質となる。	CL'	8/22		0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																						
																																																																			赤灰			Vg															γ	2	特に83.25~83.71mでは全ての長石類が変質し、網目状の灰白色粘土が不規則・不連続に分布し、軟質(硬さE)となる。原岩の組織はわずかに残るが、割れ目は消滅し、識別できない。灰赤色を呈する。	CL'	8/22		0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0		
																																																																																							赤灰			Vg															γ	2
			赤灰	Vg	γ	2	83.71~84.60m: 上位に比べて変質作用による岩盤の劣化は軽微となるが、傾斜50~70°の高角度の割れ目と傾斜10~20°の低角度の割れ目が混交し、割れ目が多くなる。割れ目沿いの細片化及び割れ目の酸化汚染が見られる。		CL'		8/22	0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																																																																	
		赤灰					Vg	γ		2																84.06~84.28m: 傾斜45~50°の割れ目が発達し、割れ目周辺が酸化汚染により褐色を呈する。		CL'	8/22		0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																																														
																										赤灰	Vg			γ															2	84.30~84.49m: 石英脈を不規則に伴い、局所的に暗灰色を呈する。		CL'	8/22	0		10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																																										
																																														赤灰	Vg				γ														2	84.60~85.30m: 上位に比べて岩盤の劣化はやや軽微であり、割れ目は少ない。割れ目の酸化汚染は見られるが、岩芯は概ね新鮮である。上位と同様、傾斜90°と60°程度の割れ目が交錯するが、密着している。		CL'	8/22		0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0																						
																																																																		赤灰	Vg			γ															2	84.94~85.00m: 微細な割れ目が密集する。		CL'	8/22		0	10	20	30	40	50	115	86 / 泥水	130	50.0	100	0.1	泥水2	0		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														0	10	20	30	40												50			
101	51.82	101.74	花崗斑岩	明褐灰	Cg	IVg	β			100.10m: 傾斜55°, 幅3~5mmで径2~3mmの岩片と緑灰色シルトを挟む。 100.27m: 傾斜70°, 幅2~8mmで径5mmの岩片と緑灰色シルトを挟む。 100.48~100.50m: 傾斜75°, 幅1cmで径1cmに細片化する。 100.66~100.67m: 傾斜5°で幅10~15mmの石英脈を挟む。 100.77m: 傾斜40°~100.81m: 傾斜40°で囲まれた範囲で、幅1~4cmで径0.5cmの角礫を含み粘土化している。 101.17mの傾斜65°と101.23mの傾斜20°及び60°の割れ目で囲まれた範囲が、幅1~4cm、径0.5~1cmの岩片状を呈する。粘土分はほとんど伴わず、マンガン汚染を伴う。	CL'																						
102										Dg																							
103			Cg	IVg	δ		103.09~103.52m: 傾斜60~70°の密着割れ目を多く含むが、ハンマーの打撃では分離・細片化しない。	CH'																									
104			Dg	Vg	γ		103.52~104.26m: 傾斜55~60°の割れ目がやや多く分布するが、コアは硬質である。割れ目に挟在物は分布しない。 104.15~104.26m: 傾斜65°の割れ目が2cm間隔で分布し、一部で径1~2cmの岩片状となる。粘土は付着しない。 104.26~104.90m: 傾斜65°の割れ目が卓越する。微細な割れ目はハンマーの強打で分離しない。 104.82~104.88m: 傾斜45~70°で幅2~5mmの石英脈を2条挟む。 104.90~105.30m: 傾斜10~30°と60~80°の割れ目が交差し、全体に割れ目が多い。割れ目の一部にマンガンが付着し、岩片状コアを主とする。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
													0	10	20	30	40												50												
106			* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰	Bg	bg	2	105.30~105.93m: 割れ目が少ない硬質コアで微細な割れ目も少ない。																																
107									105.54m: 傾斜20°で幅10~15mmの暗緑灰色脈が、傾斜80°で幅1mmの石英脈でズレているように見えるが、ズレの量は各境界で一致しない。破碎や変質は伴わない。																					105.84m: 傾斜35°で幅3mmの石英脈を挟む。	105.93~106.22m: 傾斜85°と10°の割れ目が交差し、一部岩片状を呈する。粘土は付着しないが、傾斜80°の割れ目にはマンガンが付着する。	106.22~109.06m: 割れ目が少ない硬質コアからなる。	106.55m: 傾斜60°で幅0.5mmの石英脈を挟む。	106.80m: 傾斜10°の割れ目沿いが、上部側15mm、下部側25mmでマンガン鉱染により暗灰色化するが、岩盤の劣化は見られない。	106.92m: 傾斜35°で幅2~4mmの固結した白色鉱物脈を挟む。	107.03~107.61m: 傾斜30~50°の3本の割れ目沿いにマンガン鉱染が見られる。	107.74~107.80m: 2本の傾斜70°の割れ目が分布し、割れ目沿いに一部で径1~2cmに砕けている。粘土は伴わない。	108.53m: 傾斜35°と55°の割れ目が交差し、割れ目沿いの一部で径0.5cmの小岩片化する。粘土は伴わない。	109.06~109.66m: 傾斜10~20°の割れ目が2~8cm間隔で平行に分布する。他、微細な割れ目も発達する。傾斜80°の割れ目との交差部では一部径1~2cmに岩片化する。粘土は伴わない。	109.66~109.90m: 傾斜65~70°の微細な割れ目が5~10mm間隔で密に分布する。一部でマンガンが付着する。	109.90~111.24m: 傾斜50~55°の割れ目が2~10cm間隔で平行に分布する。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																	
															0	10	20	30	40												50																																
111			アブライト	褐灰			IV _g	bg			110.65m : 傾斜50° で幅4mmの石英脈を挟む。 110.69m : 傾斜50° の割れ目沿いに黄鉄鉱が晶出する。	0 50 100	CM'																																																		
112																																V _g	cg	β	2	111.24~111.55m : 傾斜45~60° の割れ目が1~5cm間隔で見られる。一部の割れ目周辺にマンガン鉱染が見られる。 111.55~112.50m : 柱状コアを主とするが、傾斜30~60° の微細な割れ目が卓越している。 111.79mに傾斜55°、111.85mに傾斜60° の割れ目が見られる。いずれも幅0.5mmのマンガンを挟む。	24 54	CH'																									
113																																																														IV _g	bg
114																																V _g	cg			113.31~113.34m : 傾斜40~50° の割れ目周辺が鋭角礫状を呈する。 113.34~113.63m : 傾斜20~45° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。また、傾斜90° の鉛直割れ目も見られる。 113.73mに傾斜50°、113.83mに傾斜50°、113.91mに傾斜60° の割れ目が分布する。いずれも割れ目周辺が灰色に変色している。	12 122	CM'																									
																																																														IV _g	bg
			V _g	cg																																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
													0	10	20	30	40												50								
121			[Pattern]	褐灰 アブライト			β		120.38~120.67m: 有色鉱物が濃集し、灰色を呈する。	0 50 100 14 (28) 100	CL'																										
122									120.67~122.58m: 傾斜45~60°の割れ目が1~15cm間隔で発達し、それに伴う微細な割れ目が約0.5~1cm間隔で発達する。割れ目が交差する部分でコアは岩片状となる。120.95~121.08m: 中角度の割れ目に黄鉄鉱が晶出。																						121.10~121.20m: 短い筋状のマンガンが不規則に分布する。	121.56~121.68m: 傾斜約65°の潜在割れ目が発達し、変質がやや明瞭である。明褐色を呈する。	121.68m: 傾斜65°の割れ目に沿って幅1~2mmが緑灰色を呈する。	122.05~122.25m: 短い筋状のマンガンが不規則に分布する。	122.28m: 傾斜45°の割れ目周辺が変質し、岩片状を呈する。	122.58~122.87m: 傾斜約40~60°の割れ目及び微細な割れ目が発達し、岩片状~細線状を呈する。	122.65~122.79m: 傾斜45~60°の割れ目が発達し、岩片状を呈する。
123									122.87~123.10m: 傾斜約40~60°の割れ目及び微細な割れ目が発達し、岩片状~細線状を呈する。																						123.10~124.33m: 明瞭な割れ目は傾斜60°程度で、微細な割れ目も発達し、亀甲状を呈する。上下位に比べて軟質で、傾斜60°の割れ目に沿って細片化する。割れ目沿いには軽微な変質が見られるが、岩芯は概ね新鮮である。	123.36m, 123.58m, 123.72m, 123.92m, 124.14m付近は割れ目沿いに岩盤が劣化し、細片化・細粒化する。					
124									124.33~124.77m: 鉛直方向の割れ目に沿って幅10mm程度にわたり、変質作用を受け暗緑灰~緑灰色鉱物が見られる。黄鉄鉱も伴う。鉛直方向の割れ目と同方向に伸長する微細な割れ目も見られ、割れ目の一部に暗緑灰色の変質鉱物が見られる。																						124.77~124.95m: 上下位に比べて変質作用による岩盤の劣化は軽微であり、やや軟質となる。	124.95~125.00m: 傾斜65°の割れ目に沿って緑灰色の変質鉱物が見られる。全体に褐色を帯びる。上下位に比べて軟質となる。					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														0	10	20	30	40												50			
	-75.54	135.28		アプライト	灰褐	Dg Vg cg	γ 2			135.00~135.28m: 変質作用による岩盤劣化部で、亀甲状の割れ目が見られる。一部、硬さの硬質部が残存するが、下位の岩盤に比べて軟質である。 135.24m: 傾斜40°で幅6~12mmの暗緑灰色の変質帯が見られる。上端側は下層側に比べて岩盤が劣化する。135.28~137.57m: コア欠如。細片状のスライムとして採取。	CL'							9/12	60														
	-77.16	137.57		アプライト	灰赤	Cg Vg cg	γ 2			137.57~137.82m: 傾斜40~60°程度の割れ目を主体とし、一部岩片状を呈する。 137.82~138.27m: コア欠如。細片状のスライムとして採取。	CL'																						
	-77.33	137.82		アプライト																													
	-77.65	138.27		アプライト																													
	-77.77	138.27		アプライト	褐灰	Vg Dg	cg γ 3			138.72m: 傾斜70°の割れ目に暗緑灰色を呈する鉱物が不規則・不連続に付着する。 138.72~140.61m: 割れ目間隔は1cm前後で、微細な割れ目が発達する。微細な割れ目は亀甲状を呈する。変質作用により一部白濁化する。上位に比べて軟質となる。割れ目は傾斜30~50°が主体である。	CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													0	10	20	30	40												50				
141			アブライト	褐灰	Dg				140.19~140.23m: 傾斜55°程度の割れ目に暗緑灰色の鉱物が付着し、140.30m付近まで白濁し軟質となる。	3 (0)								11/15															
					Cg	Vg	cg	3	140.61m: 傾斜45°の割れ目に幅0.5mの暗緑灰色の鉱物を挟み、上端側は岩盤が劣化し、細粒化・細片化する。140.61~141.13m: 上位に比べて、脱色や白濁化の変質作用は軽微となる。140.68~140.82m: 上下位に比べて微細な割れ目が少なく、硬質となる。																								
				灰褐	Dg				141.13~141.95m: 主として、変質作用による岩盤劣化部であり、網目状の暗緑灰色鉱物が見られる。微細な割れ目が不規則に見られ、割れ目間隔は1cm未満となる。	2 (0)																							
					Vg	dg	γ	4	141.50~141.70m: 暗緑灰色鉱物が濃集し、硬さEの軟質部を形成する。原岩組織をほとんど残さない。																								
142									141.94~143.34m: 上位と比べて変質作用は軽微となり、暗緑灰色鉱物脈は少なくなるが、斑状に暗緑灰色鉱物が見られる。岩自体は硬質となる。部分的に高角度の微細な割れ目が不規則に見られ、割れ目間隔は1cm程度となる。142.00~142.50m: 鉛直の割れ目が一部不連続に分布する。	3 (0)																							
143				灰赤	Cg				142.71~142.85m: 傾斜45~70°の割れ目周辺が岩片状を呈する。																								
					Vg	cg			143.31~143.33m: 傾斜45°、傾斜50°の割れ目間が変質して灰色を帯びている。143.34~144.00m: 変質作用による岩盤の劣化はほとんど見られず、微細な割れ目が1~3cm間隔で分布する。傾斜10~20°程度の割れ目を主体とする。	2 (0)																							
144				赤灰	Dg				144.00m: 傾斜60°の割れ目に幅0.5m程度の赤灰色鉱物を挟む。144.00~144.32m: 不規則に微細な割れ目が見られ、割れ目間隔は1cm程度である。割れ目沿いに白濁し、軟質となる。144.32~144.67m: 微細な割れ目が不規則に見られる。割れ目間隔は1~3cm程度であり、変質作用による岩盤の劣化は軽微で硬質となる。	3 (0)																							
					Cg				144.67~145.17m: 変質作用により、赤色を帯び、緑灰色の鉱物が見られる。微細な割れ目が不規則に見られ、割れ目間隔は1~3cm程度となる。																								

孔番 : H24-B14-1

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 20.12m

株式会社ダイヤコンサルタント



孔番 : H24-B14-1

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 20.12m

株式会社ダイヤコンサルタント



孔番 : H24-B14-1

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 20.12m

株式会社ダイヤコンサルタント



孔番 : H24-B14-1

深度 54.00m ~ 72.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 72.00m ~ 90.00m

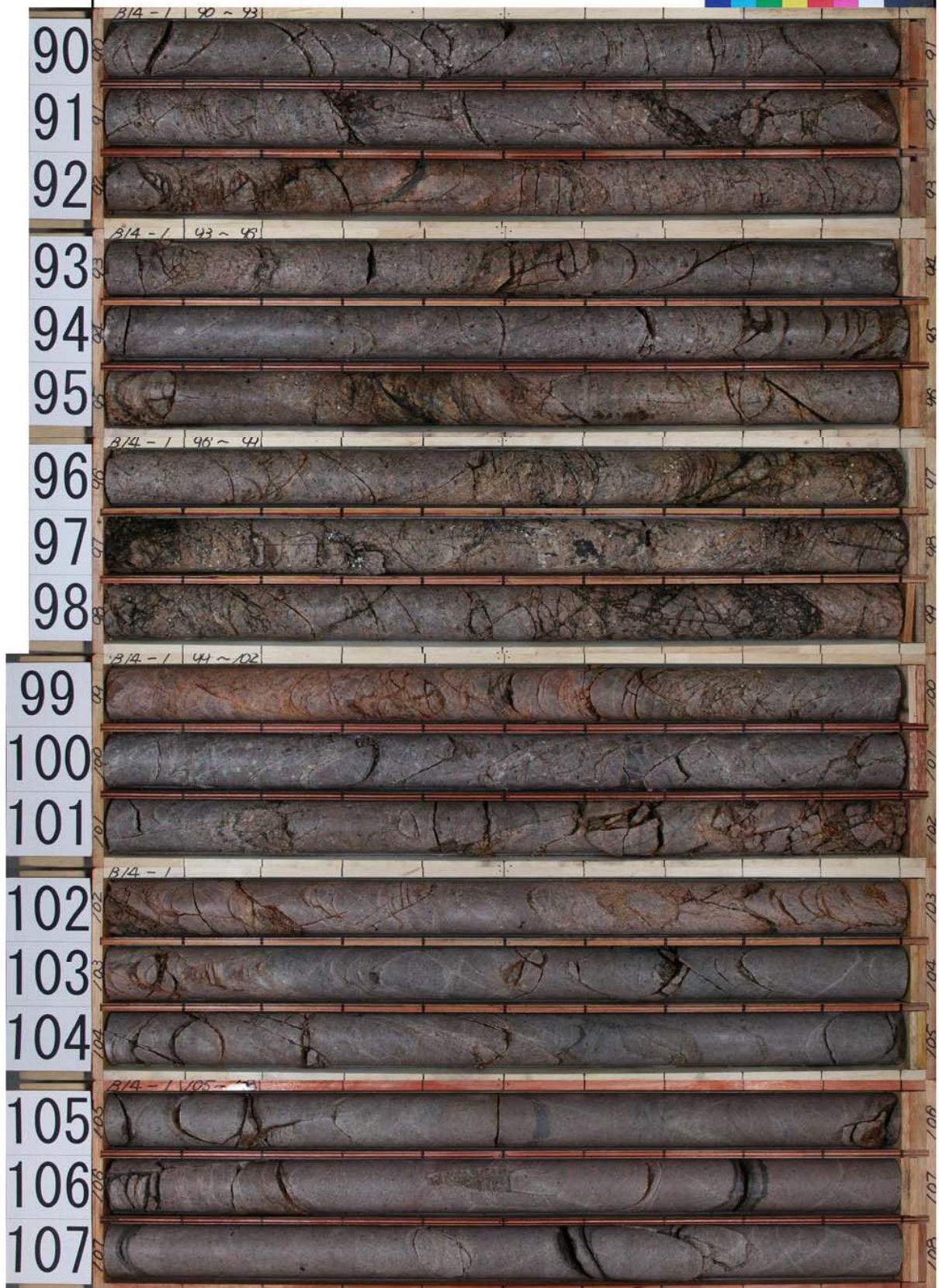
孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 90.00m ~ 108.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 108.00m ~ 126.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 126.00m ~ 144.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 144.00m ~ 150.00m
孔口標高 20.12m



余白

H31-R-2'

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															0	10	20	30	40												50			
					明赤灰	Dg VIg	cg	+			40.17~40.35m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。上端72°で幅1mmの灰白色粘土を不連続に伴う。下端は漸移的である。40.77~41.00m: 砂混じり角礫状を呈する。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					にふい黄橙	Dg VIg	dg	δ			41.15~41.87m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。割れ目には灰白色粘土及びマンガン汚染を伴う。上端62°で幅2~4mmの膨縮する灰白色粘土を伴い、下端55°で幅2mmの灰白色粘土を伴う。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					明褐色	Eg VIg					42.16~42.94m: 中~高角度割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。割れ目に灰白色粘土を挟む。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					灰白	Cg Vg		γ			44.40~45.58m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。所々、灰白色粘土を挟む。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					にふい黄橙	Eg VIg					46.22~47.02m: 砂混じり角礫状及び粘土・細砂質砂状を呈する。全体に灰白色粘土が網目状に分布する。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					にふい黄橙	Eg VIg	cg					3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					にふい黄橙	Cg IVg		δ			48.76~48.90m: 淡橙~灰白色を呈し、不規則な形状のシルト状部を伴う。やや硬質。	3 4 5 6 7 8 9 10	CL'																					
					浅黄	Dg VIg					49.76~50.10m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。マンガン汚染が顕著に見られる。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					にふい黄橙	Cg IVg					50.26~50.28m: 傾斜62°で幅3~8mmの石英脈及びマンガン濃集部を3条挟む。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					浅黄橙	Eg VIg					50.73~54.71m: 不規則な割れ目が発達し、主に粘土・砂混じり角礫状を呈する。灰白色粘土を網目状に伴い、一部にマンガン汚染も見られる。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					浅黄	Dg IVg						3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
					明褐色	Eg VIg	cg				53.94~54.03m: 傾斜74°で幅40mm程度の石英脈を挟む。マンガン汚染が見られる。53.98mには、傾斜74°で幅3mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。	3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					
		31.95	55.00		明褐色	Cg Vg		γ				3 4 5 6 7 8 9 10	D'																					

孔番 : H31-R-2'

深度 : 0.00m ~ 18.00m



孔番 : H31-R-2'

深度 : 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H31-R-2'

深度 : 36.00m ~ 55.00m



余白

H24-D1-3

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N値~深度) 図																				
		16	花崗斑岩	にふい橙	Dg	cg	δ			16.17~16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10~30mmの様状コアを呈する。	CL'																							
		17																														灰褐	Bg	bg
		18		明褐灰	IVg		2			γ	18.05~21.00m: 割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。																							
		19			Cg	cg					19.10~19.22m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。	CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 () 図 (N 値 ~ 深度)					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																														
														0	10	20	30	40											50																																																																																																																																																																																																																													
46			花崗斑岩	明褐灰			IVg			45.32m: 傾斜55°の割れ目沿いの幅約5mm前後が緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。	CL'																																																																																																																																																																																																																																															
47										Vg																				cg	cg	cg	cg	cg	45.57m: 傾斜55°の割れ目は、交差する60°と80°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																																																																																																																																																																																																																						
48																																			Vg																						cg	cg	cg	cg	cg	45.80~45.97m: 傾斜70°の低密着割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染を受ける。	CL'																																																																																																																																																																																											
49																																																														Vg																						cg	cg	cg	cg	cg	46.23m: 傾斜57°で幅5mmの灰白色の硬質な粘土脈を挟む。	CL'																																																																																																																																																																
																																																																																									Vg																						cg	cg	cg	cg	cg	46.28m: 傾斜50°の割れ目沿い幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5~1mmの白雲母が晶出する。	CL'																																																																																																																																					
																																																																																																																				Vg																							cg	cg	cg	cg	cg	46.53~46.60m: 上端45°で直線的にシャープに連続。下端40°で不明瞭である。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」の岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した岩片を多く含むマンガン濃集部である。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟在や含まれる岩片の走向配列は見られない。原岩組織が認められる。全体に明褐色~黒褐色を呈する。幅40mm以上。	CL'																																																																																																									
																																																																																																																																																Vg																								cg	cg	cg	cg	cg	46.87~46.92m: 傾斜40~60°の割れ目沿いのマンガン鉱染が著しく、黒褐色化する。	CL'																																																																												
																																																																																																																																																																													Vg																						cg	cg	cg	cg	cg	47.20m: 傾斜50°の割れ目に幅0.5mm以下のごく薄い軟質な灰白色粘土が断片的に付着する。	CL'																																																	
																																																																																																																																																																																																								Vg																						cg	cg	cg	cg	cg	47.37~47.66m: 傾斜50°の直線的にシャープな割れ目が4本平行に分布し、これに斜交~直交する30~80°の不規則に連続する割れ目や低密着割れ目が分布する。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																						
																																																																																																																																																																																																																																			Vg																							cg
			Vg	cg	cg	cg	cg	cg	47.66~48.35m: 傾斜50°前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80°の割れ目がこれらに交差する。		CL'																																																																																																																																																																																																																																															
									Vg	cg																				cg	cg	cg	cg	48.11m: 傾斜75°と40°の割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分は径5mm前後の角礫状を呈する不連続なマンガン濃集部で、軟質である。粘土化は伴わない。		CL'																																																																																																																																																																																																																						
																																		Vg	cg																						cg	cg	cg	cg	48.35~49.35m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。		CL'																																																																																																																																																																																											
																																																													Vg	cg																						cg	cg	cg	cg	48.99m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~径5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。		CL'																																																																																																																																																																
																																																																																								Vg	cg																					cg	cg	cg	cg	48.71m: 傾斜55°で幅1~2mmの軟質な明黄褐色粘土脈を挟む。	CL'																																																																																																																																							
																																																																																																																		Vg		cg																				cg	cg	cg	cg	49.21m: 傾斜75°の割れ目は、ほぼ直交する傾斜40°の割れ目や珪化した脈に横断される。もしくは、傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																																																																																																													
																																																																																																																																												Vg				cg																			cg	cg	cg	cg	49.35~49.93m: 硬さ「D」と硬硬で、一部を除き、割れ目は少なくなり、割れ目に砂や粘土などの挟在物は殆んど分布しない。傾斜50~70°とこれに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。	CL'																																																																																		
																																																																																																																																																																							Vg						cg																cg	cg	cg	cg	49.61m: 傾斜75°の割れ目は、その下端側で7本の傾斜10~30°の割れ目を止めている。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'																																																								
																																																																																																																																																																																																	Vg							cg															cg	cg	cg	cg	49.71m: 傾斜50°で幅1~2mmが砂状化する。	CL'																														
																																																																																																																																																																																																																											Vg								cg														cg	cg	cg	cg	49.93~50.76m: 傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	CL'				

孔番 D1-3 孔

深度 0.00m ~18.00m

孔口標高 6.90m



孔番 D1-3 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 6.90m



孔番 D1-3 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 6.90m



孔番 D1-3 孔

深度 54.00m ~ 60.00m

孔口標高 6.90m



余白

H24-D1-2

余白